

平成 28 年度「いわて中山間賞」候補調書

集落等の名称		ふりがな まち い しゅうらく				
		町 井 集 落				
集落等の状況 (上段…集落全体 下段)…協定集落)	市町村	花巻市				
	代表者氏名・住所	氏 名	薄衣 祐蔵		住 所 花巻市東和町	
	協定締結年度※	平成 27 年度 (平成 12 年度)				
	地域の農用地面積 (協定農用地面積)	計	田	畑	草地	採草放牧地
		3, 119a (391a)	2, 559a (391a)	310a (- a)	250a (- a)	- a (- a)
	農家数 (集落協定構成員)	計	農業者	非農業者	(代表が女性・若者の戸数)	
		30戸 (12戸)	30戸 (12戸)	1戸 (1戸)	うち女性 (1戸)	うち45歳未満 (- 戸)
	交付金 ※	656千円	個人配分※			70%
共同取組活動 ※			水路、農道等の維持・管理		19%	
			役員手当、総会費		11%	
				%		
農用地の作付状況 (協定農用地の作付状況)	計	水稻	大豆	果樹	牧草	その他
	3, 119a (391a)	2, 082a (391a)	153a (- a)	60a (- a)	250a (- a)	574a (- a)
集落等の概況	<p>町井集落は、花巻市東和町の猿ヶ石川流域に位置し、水稻を主体とする複合経営が多い集落である。</p> <p>町井集落の農家戸数は30戸で、そのうち12戸が中山間直接支払協定に参加している。</p> <p>集落内の農地のうち、協定農用地は急傾斜の田391aである。主な作付けは、水稻、大豆、えだまめ、はとむぎなどである。</p>					
集落等の組織体制図						

※の箇所は、中山間地域等直接支払交付金を交付されている集落において記載。

<p>将来の 目指す姿</p>	<p>① 集落内にレストランと直売所を併設して設置し、町井集落の農産物を食材にした郷土料理の提供などを通じて6次産業化の取組を拡大する。</p> <p>② 都市と農村の交流を推進し、相互理解や共存の意識を深めていくため、農村ならではの「学生のホームステイ」による農業体験学習と将来設置するレストランで田舎料理を提供するほか、農家が消費者に代わって野菜を育て、遠く離れていても農作物に対する愛着と恵みの喜びを味わってもらう「農産物オーナー制度」を導入する。</p>
<p>地域の 活性化の 取組内容</p>	<p>1 地域の活動のきっかけ</p> <p>① 町井集落は、高齢化等により地域農業が衰退していくことが懸念されたことから、平成5年度に「若だんな会(40代・50代 計25名)」を結成し、話し合いを幾度も重ね、地域の将来ビジョンである「アグリ・フレンド in 町井」を策定し、地域や農業を活性化していくための具体的な挑戦を始めた。この20年前に策定したビジョンは、パネルにして活性化施設に掲げられており、ビジョンを実現していく推進力になっている。</p> <p>その後、「若だんな会」のメンバーが、高齢化してきたことから、若手に引継ぐこととし、25年度に「新生若だんな会(40代・50代 計20名)」を結成し、地域や農業の活性化を引続き担っている。「新生若だんな会」では、集落の各世代の方々からの意見を集約し、10年後を見据えた新たな地域ビジョンとなる「新アグリ・フレンド in 町井」を本年度に策定することにしており、この新たなビジョンには、集落内にレストランと直売所を設置する計画を盛り込む予定としている。</p> <p>② 集落営農組織「町井アグリフレンド・ファーム」は、基盤整備の実施(14年度～23年度)を契機に中山間地域の立地条件を活かした農業と活力ある農村づくりを目指して、16年度に38戸が組合員となり設立し、地区内の農地の利用集積や稲作コストの低減に向けた集落営農の実現に取り組んでいる。その後、農地利用権、資金面など法人経営のメリットを生かしながら、地域農業の先導役としてさらなる経営発展に取り組むため、27年度に農事組合法人「町井アグリフレンド・ファーム」として新たなスタートを切った。</p> <p>農事組合法人「町井アグリフレンド・ファーム」は、集落内30haの農地の利用権を得て営農を行うとともに、地場産米を使用した米粉パンやピザ生地を製造し産直施設等で販売するなど、6次産業化の取り組みにより、農産物の高付加価値化を推進している。</p> <p>2 耕作放棄地の防止等の活動及び水路・農道の管理の状況</p> <p>耕作放棄地の発生を防止するため、耕作放棄されそうな農用地については、集落内外の担い手農家等への利用権の設定や農作業の委託を行っている。農道・水路の保全管理活動は、協定参加者全員で年3回行うとともに、協定外農家や非農家による道路法面の清掃、子供会による花壇の設置も行われている。</p> <p>「新生若だんな会」の構成員には、協定参加農家の半数が含まれていることから、花壇の設置等環境美化活動を「新生若だんな会」と協定参加農家が連携し、協定集落の内外において行っている。</p>

3 地域の活性化に向けた取組活動の特徴と成果

- ① 「町井アグリフレンド・ファーム」は、農産物の高付加価値化による所得向上を目指すため、21年度に町井農産物加工組合「おでって工房」を設立し、米粉を使用した米粉パンやピザ生地の製造販売を行っている。

6次産業化に取り組む際には、加工技術の習得、高齢化等の不安はあったが、地区の特色を生かした商品作りを目指し、県内外の先進地視察を繰り返し実施した。また、地区での話し合いと試作を幾度も重ね、商品開発に3年を費やしたことで、納得のいく商品を生み出すことができた。

米粉パンは、花巻市内の産直施設等（産直あおぞら、Aコープ東和、道の駅とうわ、東和温泉）で、毎日60個程度を販売し、しっとりもちもち食感が評判になっている。

ピザ生地は、花巻市、北上市の飲食店からの要請に応じた受注生産を行っており、毎月100枚程度を生産している。小麦生地にはない従来の概念を覆すほどのインパクトな食感が評判になり、売上を伸ばしている。

こうした動きもあって、24年度には、「東和こなっこ加工組合」を新たに設立し、つつるしこしこ食感の「米粉麺」の製造販売を始めるなど、地域で地場産加工品の生産が拡大してきている。

- ② 集落では、グリーンツーリズムにも地域ぐるみで積極的に取り組んでいる。

この中では、地場産の米や大豆を使った「パンづくり教室」、「みそづくり教室」を開いている。このように、集落では、女性に活躍の場を提供するとともに、都市農村交流により、相互理解が深まってきている。

4 今後の課題と将来展望

更なる活性化のため、高収益作物の生産振興と地域の特徴を活かした加工品開発が必要であり、

- ① 米以外の作物振興や加工品開発にシフトした複合的農業を目指している。

- ② また、集落内にレストランと直売所を併設し、地域内の農産物を活用した郷土料理の提供とこだわりの加工品をアピールし、6次産業化を進めていく。併せて都市農村交流による地場産加工品の消費拡大を進めていくことにしている。

町井集落活動写真



(北海道苫小牧市の中学生による田植え体験)



(「おでって工房」での米粉パン加工)



(神奈川県川崎市の中学生による稲刈り体験)



(花巻空港ターミナルビルでの米粉パンイベント販売)